

2021年度第2四半期決算概要 及び2021年度業績予想

2021/10/29

 住友重機械工業株式会社
社長 下村 真司

INDEX

01 2021年度第2四半期決算概要

02 2021年度業績予想

03 トピックス

01

2021年度第2四半期決算概要

01 2021年度 第2四半期業績サマリー

単位：億円

■ ポイント

(1) 受注高

・ 経済／設備投資の回復を背景に、前年同期比大幅増加。

・ セグメント別では、エネルギー&ライフラインを除き前年同期比増加。

(2) 売上高

・ 受注高と同様に、前年同期比増加。

・ すべてのセグメントで前年同期比増加。

(3) 営業利益

・ 売上高の増加などを背景に、前年同期比増加。

・ セグメント別では、インダストリアルマシナリーを除き前年同期比増加。

	2020/上	2021/上	増減
受注高	3,708	4,895	1,187
売上高	3,917	4,460	543
営業利益	212	275	63
営業利益率	5.4%	6.2%	0.8%
経常利益	191	272	81
経常利益率	4.9%	6.1%	1.2%
特別損益	—	△3	△3
税金等調整前 当期純利益	191	270	78
親会社株主純利益	109	177	68
親会社株主利益率	2.8%	4.0%	1.2%
1株当たり配当	9円	35円	
為替レート(ドル)	¥106	¥108	

01 セグメント別営業利益

単位：億円

■ 対前期比較（2020/上－2021/上）

<メカトロニクス>

- ・主力の変減速機の需要増により売上増加、増益。

	2020/上	2021/上	増減
メカトロニクス	11	27	16

<インダストリアル マシナリー>

- ・プラスチック加工機械は中国や欧州の需要増により売上増加、増益。
- ・半導体関連は受注残が前年に比べ減少したことから売上減少、減益。

インダストリアル マシナリー	89	88	△0
-------------------	----	----	----

ロジスティックス& コンストラクション	73	95	22
------------------------	----	----	----

<ロジスティックス&コンストラクション>

- ・油圧ショベルは中国や北米などの需要増により売上増加、増益。
- ・そのほかの事業は運搬機械事業の売上減少などにより、減益。

エネルギー& ライフライン	30	52	22
------------------	----	----	----

その他	10	13	3
-----	----	----	---

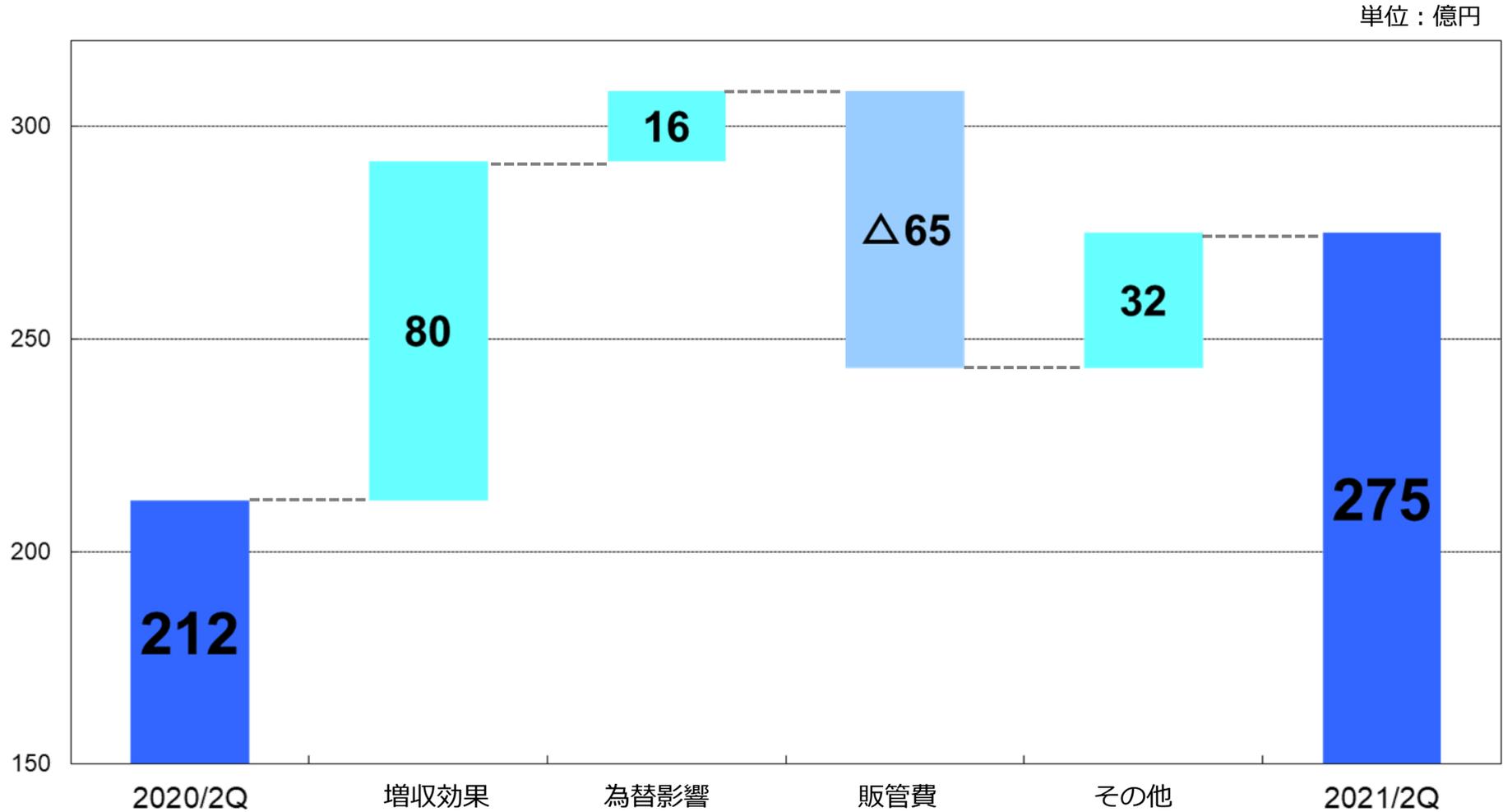
<エネルギー&ライフライン>

- ・エネルギープラント事業は売上増加により増収。
- ・そのほかの事業は売上の減少などにより減益。

計	212	275	63
---	-----	-----	----

01

営業利益増減分析



01

連結貸借対照表

単位：億円

	2021/3末	2021/9末	増減		2021/3末	2021/9末	増減
流動資産	6,136	6,113	△23	負債	5,258	5,139	△119
現預金	995	991	△4	買掛債務	1,603	1,634	31
売上債権	2,829	2,665	△165	有利子負債	1,244	1,095	△149
たな卸資産	2,002	2,154	152	その他	2,411	2,410	△1
その他	310	304	△6	純資産	5,049	5,311	262
固定資産	4,171	4,337	166	株主資本	4,462	4,569	107
有形固定資産	2,758	2,874	116	その他の包括 利益累計額	445	599	154
無形固定資産	768	802	34	非支配株主持分	142	144	1
投資その他の 資産	645	661	16	合計	10,307	10,450	143
合計	10,307	10,450	143	ネット有利子 負債比率	2.4%	1.0%	△1.4%
				自己資本比率	47.6%	49.5%	1.8%



地域別売上高

	2021年度第2四半期(21.4-21.9)							単位：億円
	北米	ヨーロッパ	アジア(除く 中国)	中国	その他	海外計	日本	総売上高
メカトロニクス	121	178	68	73	44	484	275	759
インダストリアル マシナリー	91	178	137	277	29	713	356	1,069
ロジスティクス&コンストラクション	469	97	164	225	70	1,024	649	1,673
(うち油圧ショベル)	214	93	139	224	67	736	331	1,066
エネルギー&ライフライン	49	71	70	5	101	296	635	931
その他	-	-	-	0	-	0	29	29
合 計	729	525	440	580	243	2,517	1,944	4,460

	2020年度第2四半期(20.4-20.9)							
	北米	ヨーロッパ	アジア(除く 中国)	中国	その他	海外計	日本	総売上高
メカトロニクス	110	132	57	48	35	382	255	637
インダストリアル マシナリー	94	119	249	146	23	631	335	966
ロジスティクス&コンストラクション	338	26	88	210	43	704	708	1,413
(うち油圧ショベル)	125	19	71	201	37	453	344	797
エネルギー&ライフライン	31	57	148	6	79	322	549	871
その他	-	-	-	0	-	0	31	31
その他	573	333	543	410	180	2,039	1,878	3,917

※為替レート（ドル） 20年度第2四半期：¥106 21年度第2四半期：¥108

02

2021年度業績予想

02 新型コロナウイルス感染症、サプライチェーン混乱への対応

1. 新型コロナウイルス感染症への対応

	2021年度上期総括	今後の対応
操業	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外で感染者急増も社内クラスター発生は防止 ・事業単位でのBCP再構築 ・生産影響は最小限 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策の徹底 ・BCPの常時見直し ・リモートワーク正式制度化とハードの充実 ・その他働き方改革推進

2. サプライチェーン混乱への対応

	2021年度上期総括	今後の対応
サプライチェーン	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でのアジアにおけるロックダウンや米国、中国での荷揚げ停滞による滞船問題、米国の労働者不足などにより、資材・部品供給、物流面で問題が生じたが、問題顕在化以前の受注案件が多く、またBCPが機能し、量・価格ともに業績への影響は最小限に抑えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>販売価格改定交渉の実施</u> <ul style="list-style-type: none"> ← 鋼材高騰 エネルギー価格上昇 ・<u>サプライチェーン強化拡大とリードタイム見直し</u> <ul style="list-style-type: none"> ← 半導体ほか資材不足 物流混乱

02 2021年度業績予想

■通期業績予想を上方修正。合わせて年間配当予想も70円から90円に。

単位：億円

	2020年上期 実績	2021年上期 実績	2020年度 実績	(参考) 2021年度予想 (21年5月時点)	2021年度予想 (21年10月時点)
受注高	3,708	4,895	8,139	8,800	9,900
売上高	3,917	4,460	8,491	8,700	9,500
営業利益	212	275	513	500	600
営業利益率	5.4%	6.2%	6.0%	5.7%	6.3%
経常利益	191	272	495	460	570
経常利益率	4.9%	6.1%	5.8%	5.3%	6.0%
特別損益	0	△3	△58	△20	△20
親会社株主純利益	109	177	268	270	340
親会社株主利益率	2.8%	4.0%	3.1%	3.1%	3.6%
1株当たり配当	9円	35円	65円	70円	90円
配当性向			29.8%	31.8%	32.4%
ROIC(税引後)			6.1%	5.6%	6.8%
【参考】ROE			5.6%	5.4%	6.7%
織込レート(ドル)	¥106 (実績)	¥108 (実績)	¥106 (実績)	¥105	¥110

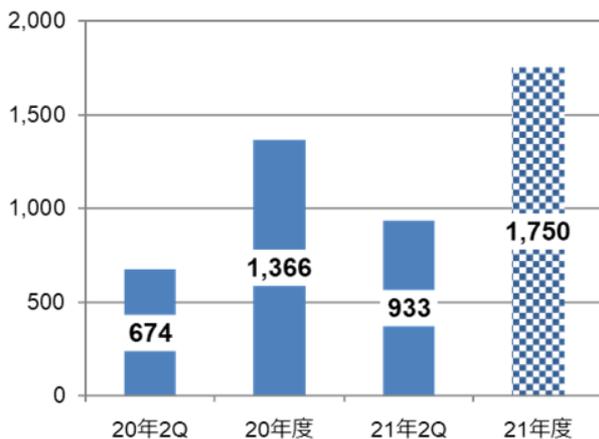
02 メカトロニクス

2 1 上期：国内、欧米、中国で、中小型の変減速機やロボット用精密減速機、モータの需要が増加し、前年比で受注・売上・営業利益ともに増加。

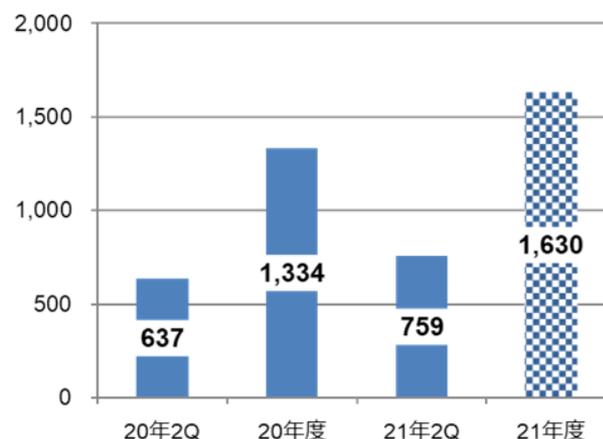
2 1 年度：下期に向け市況は一旦落ち着くものの回復傾向が続き、前年比で受注・売上ともに増加の見通し。
営業利益も増加の見通しだが、資材費高騰の影響で改善は限定的。

単位：億円

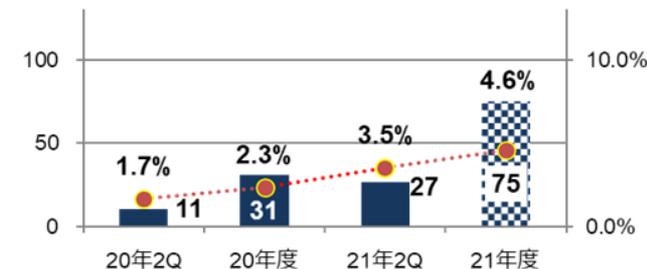
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



02 インダストリアル マシナリー

<プラスチック加工機械>

21上期：中国の電気電子関連の需要増加や欧州での需要増加により、前年比で受注・売上ともに増加。

21年度：下期に向け市況は一旦落ち着くものの、前年比で受注・売上ともに増加の見通し。営業利益も増加の見通しだが、資材費高騰の影響あり。

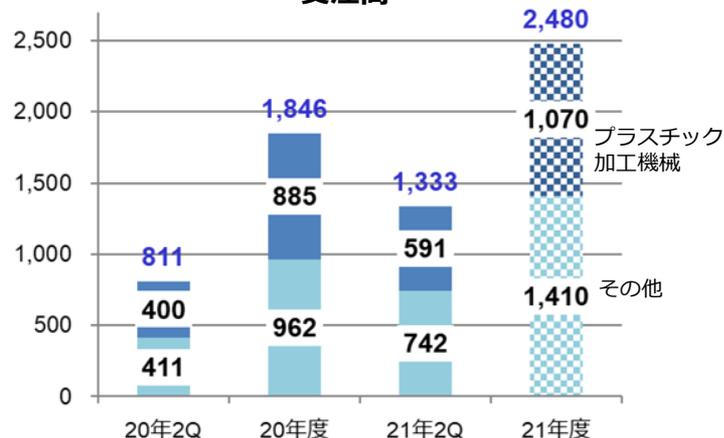
<その他>

21上期：半導体関連の需要増で前年比受注は増加も、受注残が減少し売上・営業利益は減少。

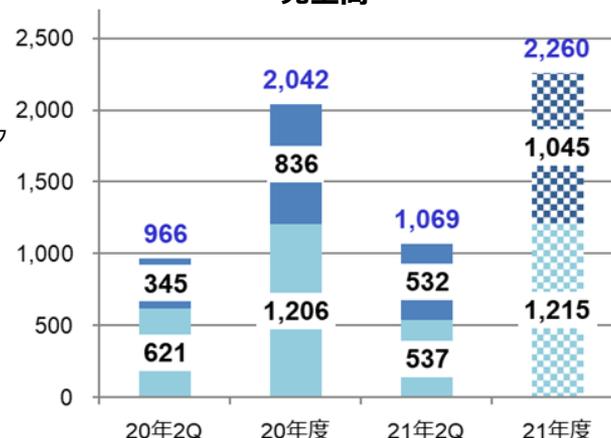
21年度：前年比で受注増も、売上は前年並みで、機種構成の変化により営業利益は減少。

単位：億円

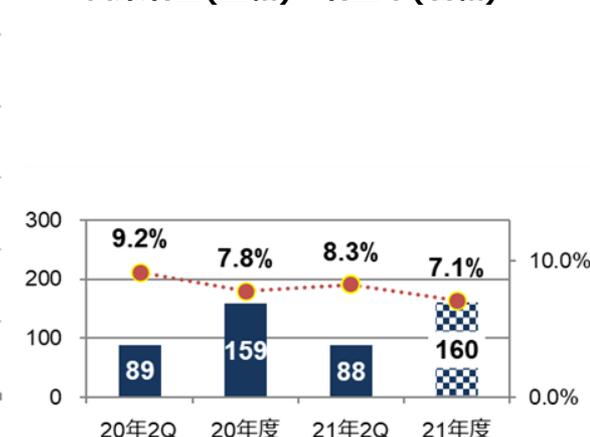
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



02 ロジスティクス&コンストラクション

<油圧ショベル>

21上期：国内、中国の市場が堅調であったことや北米地区の需要が回復してきたことから、前年比で受注・売上・営業利益ともに増加。

21年度：国内や北米地区が引き続き堅調で、前年比受注・売上ともに増加の見通し。営業利益も増加の見通しだが、資材費高騰の影響で改善は限定的。

<その他>

21上期：建設用クレーン事業は、前年比で受注・売上・営業利益ともに増加も、運搬機械事業は、前年比で受注・売上・営業利益ともに減少。

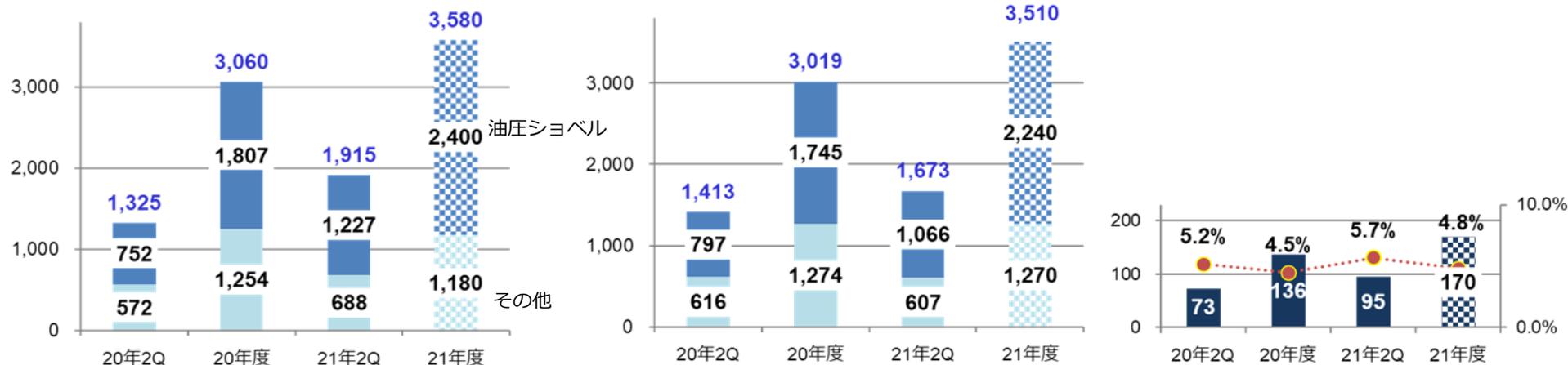
21年度：受注・売上は前年並みも、機種構成の変化、資材費高騰などで営業利益は前年比微減の見通し。

単位：億円

受注高

売上高

営業利益(左軸)・利益率(右軸)



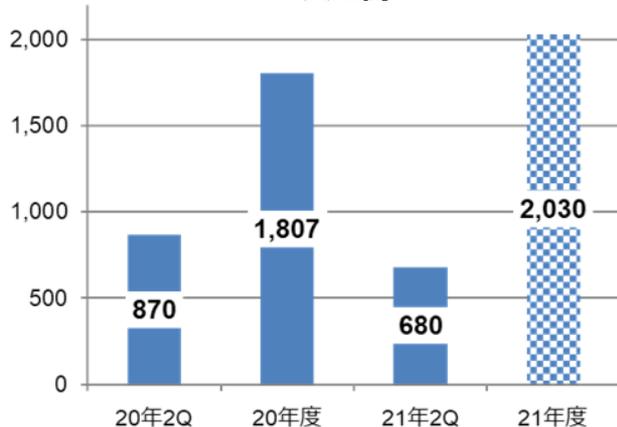
02 エネルギー＆ライフライン

2 1 上期： エネルギープラント事業で前年にバイオマス発電設備の大型案件を受注していたことから前年比受注は減少も、主に国内で受注残があったことから売上・営業利益はともに増加。
 その他は、船舶をはじめ受注は増加も、売上は減少し、営業利益も減少。

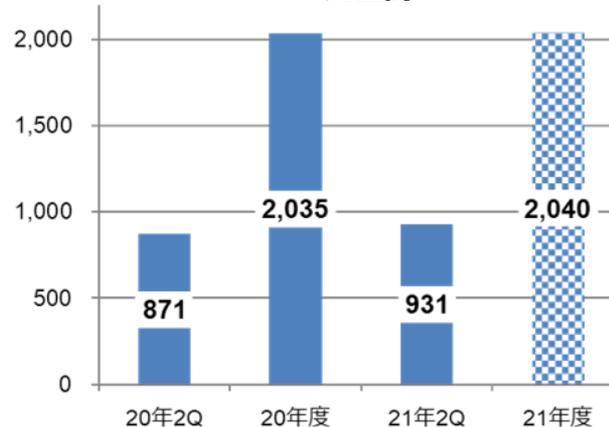
2 1 年度： エネルギープラント事業はじめ概ね堅調に推移する見通しで、受注・売上・営業利益ともに前年並みの見通し。

単位：億円

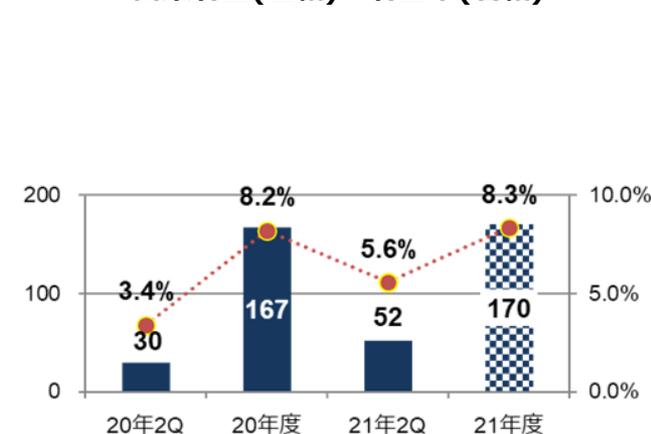
受注高



売上高



営業利益(左軸)・利益率(右軸)



02 2021年度 セグメント別業績予想まとめ

単位：億円

		2020年上期 実績		2021年上期 実績		2020年度 実績		(参考)2021年度 予想(21年5月時点)		2021年度予想 (21年10月時点)	
メカトロ ニクス	受注高	674		933		1,366		1,580		1,750	
	売上高	637	(%)	759	(%)	1,334	(%)	1,490	(%)	1,630	(%)
	営業利益	11	1.7	27	3.5	31	2.3	75	5.0	75	4.6
インダスト リアル マシナリー	受注高	811		1,333		1,846		2,160		2,480	
	売上高	966		1,069		2,042		2,060		2,260	
	営業利益	89	9.2	88	8.3	159	7.8	100	4.9	160	7.1
ロジス ティックス &コンスト ラクション	受注高	1,325		1,915		3,060		3,200		3,580	
	売上高	1,413		1,673		3,019		3,080		3,510	
	営業利益	73	5.2	95	5.7	136	4.5	160	5.2	170	4.8
エネルギー &ライフ ライン	受注高	870		680		1,807		1,810		2,030	
	売上高	871		931		2,035		2,020		2,040	
	営業利益	30	3.4	52	5.6	167	8.2	145	7.2	170	8.3
その他	受注高	28		33		59		50		60	
	売上高	31		29		60		50		60	
	営業利益	9		13		21		20		25	
合計	受注高	3,708		4,895		8,139		8,800		9,900	
	売上高	3,917		4,460		8,491		8,700		9,500	
	営業利益	212	5.4	275	6.2	513	6.0	500	5.7	600	6.3

03

トピックス

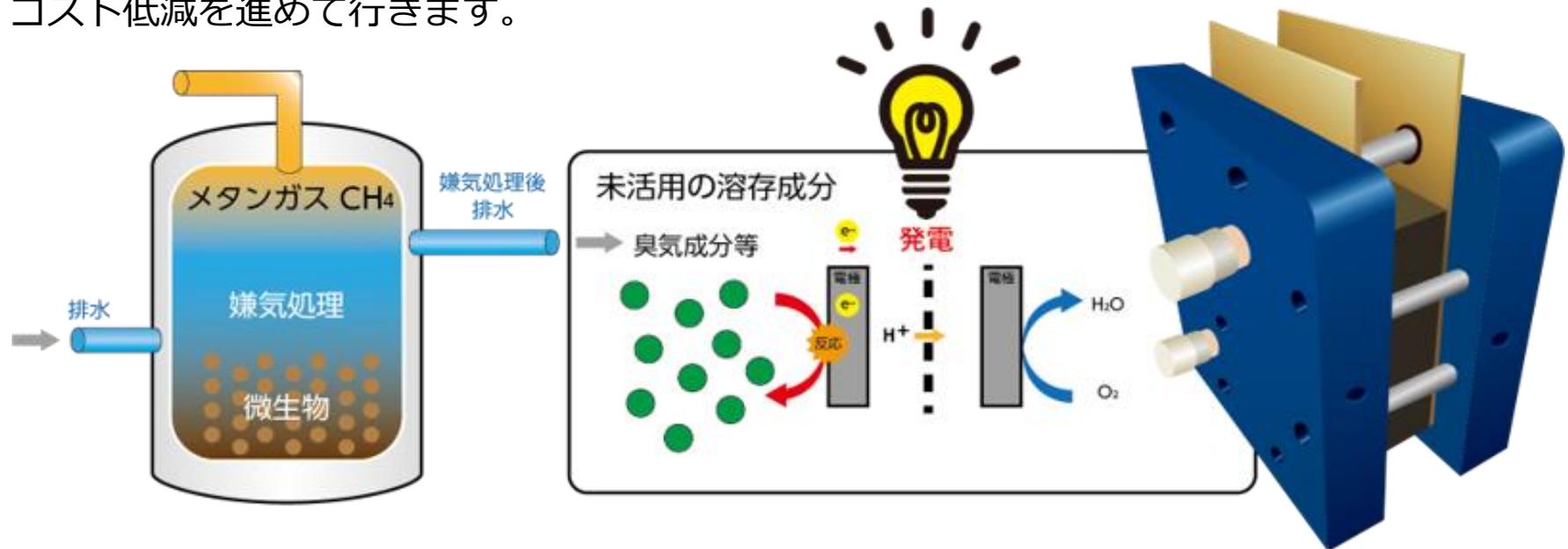
03 トピックス① <開発重点領域>

重点領域	開発のターゲット
環境	持続可能な産業に必要な環境保全技術開発 (排水・廃棄物処理技術)
エネルギー	脱炭素社会に向けた未来技術開発 (二酸化炭素・廃熱利用技術、 プラント故障診断／運転支援技術)
自動化	移動体やロボット商品の知能化・高度化、 生産技術革新に向けた開発推進
デジタルイゼー ション	知能化技術・情報基盤技術を磨き、 各種知能を製品・サービスに実装

03 トピックス① <開発重点領域 環境、エネルギー>

微生物分解後の排水からのエネルギー回収

技術研究所では、2019年度よりスタートしたチャレンジ制度※を活用して、今まで廃棄されていた嫌気処理後の排水に含まれる未活用の溶存成分（分解産物）から、微生物反応を介さずに発電することによるエネルギー回収に世界で初めて成功しました。今後実用化に向け、発電量向上、大型化の検討・開発を行い、コスト低減を進めていきます。



※チャレンジ制度：「社員のチャレンジ精神の育成」および「未来商品・技術への投資」のために、当社グループの将来を担う技術、アイデア、商品の構想を持つ社員に対し「夢を実現する場」を提供することを目的とする制度。社員自らが実現したいテーマを応募することが特徴。

03 トピックス② <射出成形機 新工場竣工（21年7月）>

射出成形機は千葉とドイツに生産拠点を有し、千葉がグローバルに製品を供給している、プラスチック機械事業におけるマザー工場としての役割を果たしている。このたび、当社千葉製造所内に新工場を竣工した。

1. 目的

- ・ 射出成形機の需要変動に対応するため、新工場を建設することで、生産能力の増強に加え、省人化・自動化を向上させる。
- ・ あわせて既存の工場のレイアウト変更も実施し、物流効率の改善を図っていく。

2. 概要

- | | |
|-------|----------------------|
| ①所在地 | 千葉市稲毛区 |
| ②投資額 | 約50億円 |
| ③生産能力 | 1.5倍※ |
| ④生産台数 | 6,000台／年※ |
| ⑤建築面積 | 約3,300m ² |
| ⑥延床面積 | 約7,600m ² |

※国内既存設備と合わせた数値



03 トピックス③ <イオン照射事業 拠点拡大（21年10月）>

当社の100%子会社である住重アテックス（愛媛県西条市、以下ATEX）は国内で唯一イオン照射サービス※を行っている。

このたび、パワー半導体にイオン照射するための拠点を拡大し、加速器を増設した。

1. 目的

- ・近年の車載、民生用などパワー半導体市場の拡大に伴い、ATEXへのイオン照射依頼がここ数年で急増。
- ・イオン照射依頼は今後さらに増加し、現有処理能力を大きく超える見込であることから、さらなる事業拡大と安定生産のため今回新設。10月1日から稼働。

2. 概要

加速器は当社製を使用するが、ATEXは既に愛媛県西条市で4機所有。新設する5号機は岡山県に設置し、2拠点化を図る。

①所在地 岡山県倉敷市（当社岡山製造所内）

②投資額 約15億円

※イオン照射サービス

半導体ウエハに水素やヘリウムイオンの照射を行うサービス。当社製の加速器を用いて、パワー半導体（IGBT、ダイオードなど）の内部に局所的な欠陥層やn型層を形成し、電気特性の向上による省エネ化や機器の小型化に貢献している。

当社ではその他にも、半導体の構造そのものを形成することを目的としたイオン注入装置や、半導体結晶の回復やイオンの活性化を目的としたレーザーアニール装置を製造している。



サイクロトロン加速器

03 トピックス④ <サステナビリティ推進>

カテゴリ	2021年度上期の実績	課題
全体	<ul style="list-style-type: none"> ・推進組織強化 ・サステナビリティ基本方針制定 ・“EcoVadis”のブロンズメダルを取得※ ・非財務情報開示拡充 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会価値向上に向けたCSV推進 ・マテリアリティ対応強化 ・開示情報発信量、質の改善
環境 (E)	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動問題対応加速 ・CO2排出量データカバー率向上 ・TCFD賛同 	<ul style="list-style-type: none"> ・リスク、機会評価と対策立案 ・CO2排出量データの信頼性向上 ・シナリオ分析、目標設定
社会 (S)	<ul style="list-style-type: none"> ・サプライチェーンCSR対応強化 ・職域接種等感染症対策実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・調達先との連携強化 ・人権問題対応 ・社員、協力員のウェルビーイング実現
ガバナンス (G)	<ul style="list-style-type: none"> ・社外取締役比率向上 ・女性社外監査役就任 ・贈賄防止基本方針の制定 	<ul style="list-style-type: none"> ・社外取締役の更なるプレゼンス向上 ・ジェンダーダイバーシティ

※EcoVadis：世界最大級の企業のサステナビリティ格付けプロバイダー。世界160か国、75,000社以上のサプライヤー企業を対象に環境、労働と人権、倫理、持続可能な調達の4側面で企業の持続可能性を評価。「ブロンズメダル」は業界内上位50%のスコア取得等の基準を満たした企業に授与される。当社グループは一般機械製造業界内で上位40%以内に入るスコアを獲得。

03 トピックス⑤ <ガバナンス>

ガバナンスのさらなる充実に向けて

課題① 取締役会の構成

→ 女性役員登用推進、社外取締役人数比率検討
(現状 社外取締役3名、社外比率33%)

課題② 資本コストを意識した審議の充実

→ 資本コストをさらに意識した取締役会での審議の実行
投資案件、M&A案件実行後の取締役会における適切な
フォロー

課題③ 戦略的方向性の議論の深耕

→ 長期的な戦略の議論の場におけるさらなる議論の深掘り
取締役会への報告プロセスを整理した上で、取締役会での
議論充実



住友重機械工業株式会社

将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。